

岩手県臨床心理士会

【 釜石市支援活動 】 2014年4月1日—2014年7月31日分

昨年度のサロン活動を経て、地区別のサロン活動に4月より展開した。災害復興住宅建設が進む一方で仮設統廃合計画が進んでもおり、仮設住民の複雑な思い（希望の復興住宅入居が満たされるのか、もう少し転居を待つか）がある。また、新たに移転してきた被災者と以前から居住している地区住民との関係構築も本格的な地域課題になりつつある。

統廃合の説明会があった仮設では、関係の良かった近隣同志にも緊張した雰囲気が一時期生まれていた。その後、移動の目処がほぼついた頃から表面上は落ち着きを取り戻していた。しかし、個別の住民の思いを聞くことのあるホームセンタースタッフの疲弊が見受けられた。

2地区のサロン活動は地区別の違いを示しながらも参加者に広まってきており、参加者が近況報告をおこなう中で、今感じていることを伝えあう場となってきた。他の参加者から癒やしや励ましを受け、参加者間の支え合う関係性が目に見えてきている。一方で、自治会が解散した仮設団地もあった。これまでの仮設団地内の人間関係の課題が表面化した結果のようであった。

また、地区保健師より地域住民への訪問相談依頼が毎月寄せられた。復興に伴う市内の変化を受けている地域住民へのこころのケアも今後一層必要になると感じられた。

4月 活動日数 5日間（週1回） 支援対象者人数 66人

5月 活動日数 4日間（週1回） 支援対象者人数 31人

6月 活動日数 4日間（週1回） 支援対象者人数 36人

7月 活動日数 5日間（週1回） 支援対象者人数 44人

【 釜石市支援活動 】 2014年4月1日—2014年7月31日分

昨年度に引き続き、中里団地と高浜仮設にて、サロン活動とリラクゼーションを中心とした活動をおこなった。また住民と相談しながら、イベントの企画・実施もおこなった。

中里団地仮設では、人数の若干の変動はあるが、転居に関する大きな動きはない。高浜仮設では、いつもサロンに来てくださる方数名が災害公営住宅に移ったが、変わらずサロンには来てくれている。今後、転居についての動きはより活発になると予想され、それに伴う不満、ストレス、取り残され感や転居先での適応の問題などが懸念される。また仮設住宅はいずれも、高齢単身世帯が多く、日々の見守り機能が欠かせない。そのため、コミュニティでの支え合いは今後ますます重要になると考えられ、本活動のようなサロン活動を通じたこころのケアがなお一層必要とされよう。

4月 活動日数 2日間 支援対象者人数 40人

5月 活動日数 2日間 支援対象者人数 21人

6月 活動日数 1日間 支援対象者人数 32人

7月 活動日数 2日間 支援対象者人数 24人

